翌日のスポーツ紙には「無念の涙！」の見出しで、弁天堂の惜敗が報じられた。もともと呑んべえである監督は、昼間からヤケ酒だ。
ラグビー部室も集まりが悪い。いつもいるはずのあかねさえも姿を見せていないようだ。皆、気が抜けて練習する気にもなれないのだ。除名処分なのだから無理もない。部室のTVでは、ちょうど大学選手権の決勝戦・明慈大学vs通天閣大学を放映中だった。

とある神社に明が訪れていた。キョロキョロと誰かを探している。すると、大木の上から、あかねの声がかかった。
あかね「明、何か用か･･･？」
明「家に行ったら、お母さんがたぶんここだろうって･･･あれから全然、学校にも来ないけど、どうしたの･･･？今、明大の決勝戦をやってるんだけど、見なくていいの！？」
あかね「俺は、もうラグビーはやめたんだ！覆面をかぶってまで選手権に出たのに、結局、明大と戦えずこのザマだ･･･しかも、朝倉と必ず決勝で会おうと約束したのに、それも果たせなかった。はは･･･今頃、朝倉は俺のこと笑ってんだろうな･･･どのツラさげてラグビーなんか続けられるっつーんだ？おりゃあ、もうラグビーやめるんだよっ！！」
この言葉を聞いて、明は怒った。
明「そ･･･そんなの卑怯だわ！！最近、やっとね･･･私、ラグビーが楽しくなってきたのに･･･それとゆーのも、もともとはアンタが私をラグビーに引きずり込んだのよ。それを今になって自分だけやめるなんて、男らしくないわよ！！体は女だけど･･･」
口論になった。
あかね「るせーっ！そもそも、こんな事になったのは、この体が女だからじゃねーか。こんな体じゃなかったら、こんな事にはならなかったんだ！！」
明「こんな体で悪かったわねー！！」
あかね「ああ、悪すぎらあ！胸だって小さいし･･･」
明「言ったわねー！！」
あまり気づいてなかったが、**あかねは貧乳らしい**。怒った明は、あかねに石を投げつけたため、あかねはバランスを崩して木から落ちてしまった。さすがにここで二人は仲直りし、一緒に神社に手を合わせるのだった。

その頃、風馬は自宅にいた。なんとJOC（日本オリンピック協会）の訪問を受けている。100m走9秒98という日本新記録、そして9秒96という自己ベスト記録を誇る風馬に、次のオリンピックに出て欲しいというのだ。
JOCの人「風馬君･･･あの時は色々とあって、君は陸上から離れてしまったが、低迷する今の陸上界を救えるのは君だけなんだ！」
以前にも述べたことがあるが、この風馬が陸上を離れた理由は、伏線の雰囲気をかもしだしているが、結局この後触れられることはない（笑）

居間の TV では、やはり明慈大 vs 通天閣大の試合をやっている。それを見ながら、風馬は確かに 2 年前までの目標はオリンピック出場であったこと、新しい目標はこの明慈を倒すことだったがそれももはや叶わないものであることなどを考えた。
結局、**風馬は JOC の誘いを受け、オリンピック選考会に出場すると返事した。**

ところかわって、弁慶のところには、相撲部屋から誘いがきていた。高校時代に無敗を誇る学生横綱だった弁慶も、大学に入って相撲の道を捨てたのであるが、花房部屋から改めて相撲の道を志してみないかきたのだ。
弁慶も TV の大学選手権決勝戦をみつつ、しばし考えた後、相撲を再開すると決断した。
いや･･･君はもともと大学で俳句同好会に入っていたんだから、どちらかというと復帰するのはそちらでは？ま、弁慶の俳句はこの漫画内でちょくちょく出てくるのだが、**お世辞にもハイセンスとはいえない**が。

決勝戦では明慈大が通天閣大を圧倒していた。
エース朝倉のステップ、圧倒的なパワーを誇る FW の南郷、精密なキックを誇る田辺など、有力選手が大活躍し、明慈大学は V3 を達成した。南郷と田辺はまだ 3 年生なので、朝倉が来年抜けても、明慈の天下は安泰と思われた。
表彰式が始まった。ラグビー連盟の理事長が優勝旗を授与しようとしたが･･･なんと**表彰台に登った朝倉は受け取りを拒否した！**
朝倉「まだ真の日本一は決まっていません！従って、まだ優勝旗をいただくわけにはいきません！！」
騒然とする客席。
朝倉「あともう一試合･･･弁天堂大学との試合に勝ってから、この優勝旗をいただきます！！」
朝倉は、弁天堂大が通天閣大に敗れた試合直後、寺島先生（エロ爺さん）に何かをお願いしていた。それは、明慈大が通天閣大を破って優勝出来たら、その後で弁天堂大と試合をさせて欲しいという内容だったのだ。やはり、**エロ爺さん、ラグビー界ではなかなかのお偉いさん**とみえる。
優勝旗拒否の中継をみていた、柴田記者や弁天堂ラグビー部のメンバーは興奮を隠せなかった。
近藤「おれは、あかねと監督に連絡する。お前らは他の連中に知らせろ！」

あかねと明が自宅に帰ってくると、ちょうど近藤から電話がかかってきていた（**携帯電話がない時代なので、家電**）。すぐに TV をつけろという。あかねは、朝倉が弁天堂大との試合を宣言したという放送を目の当たりにした。
明「朝倉さんは、アナタのこと笑ったりしてなかったじゃない。むしろアナタとの試合を

優勝を蹴ってまでしたがっているのよ！どう？これでもラグビーをやめられるの！？」
そういえば明（本来のあかね）は、朝倉の元彼女であったわけだが、その辺の葛藤はないのだろうか。そう考えると、この時点で、明（あかね）はもうあかね（勇二）のことを好きになっていたのかもしれない。
あかね「ありがとう、朝倉･･･」
あかねは目に涙を浮かべたあと、急に走り出した。
明「ちょ･･･ちょっとどこ行くの！？」
あかね「決まってらあ、ラグビー部だ！！さっそく、対明大に備えて練習するんだっっ！！」
単純なヤツだ。

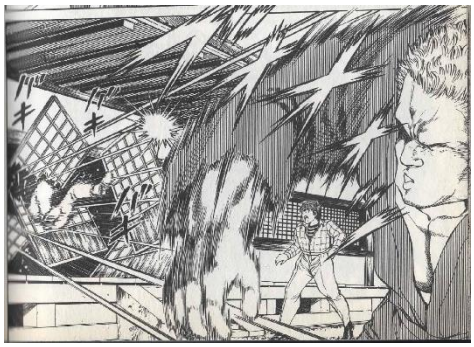
飲み潰れていた監督も、剣道部（真剣使用）に戻っていた鏡も、ミリタリークラブに戻っていたランポーも、土門も六角も戻ってきた！
だが、**二人だけ例外**がいた･･･。**風馬と弁慶**は、朝倉の優勝旗拒否報道をリアルタイムでみていたが、もう一呼吸考えを整理したうえで、各々オリンピックと相撲の道を選ぶ決意を表明したのだった。一度オファーを引き受ける返事をしてしまった手前、仕方のないことかもしれないが、**タイミング的にはまだ十分撤回が間に合う**と思うのだが･･･**せめて、あかねに報告・連絡・相談でもしてから決めて欲しかった**ものだ。ともかく、この二人の離脱は痛すぎる。
だが、そんなことは知る由もないあかね。
あかね「よっしゃあっ！明大をぶっ倒すぞおおおっっ！！」
と、大学へと疾走するのであった。

あかねが大学に到着すると、部室にはあらかたの部員達が戻ってきていたが、風馬と弁慶がいない。すると、監督がやってきて風馬・弁慶の二人から退部の連絡があったと、皆に伝えた。当然、驚く部員達。この二人を欠いて明慈に挑むのはキツすぎる。あかねは、明を連れて二人の説得に赴くことにした。

まず、風馬を訪ねた。風馬の実家は置屋であるため、着飾った芸者さんがたくさんいる。風馬も「ボン」と呼ばれながら、色っぽいお姉さん達に可愛がられながら育ってきたようだ。風馬が**スケコマシ**になったのは、このような環境で育ったからだ。
改めてラグビー部に戻るよう風馬を説得するあかねと明だったが、風馬の決意は固かった。
風馬「たとえ明大に勝っても、所詮除名されるラグビー部だ。残っても意味ねーよ。それに･･･もう約束しちまったんだよ」
だから、明大と試合した後にオリンピックに行けばいいだろ･･･と、皆が突っ込みたくなるかもしれないが、一応この後の展開で明らかになるが、明慈大との試合とオリンピック

選考会の日が同一日なのである。それなら、風馬の判断もわからないでもない。
あかねは、イチかバチかの勝負を持ちかけた。
あかね「俺と･･･俺と競走しようぜ。俺と 100m 走って俺がもし勝ったら戻って来い。俺に負けるようならオリンピックなんか出られる訳ねーもんな」
いったんはバカバカしいと一笑に付した風馬だったが、あかねの「逃げんのか？」という挑発をうけて、勝負することになった。
明の号令で、家の前の一本道で 100m 走の勝負をする風馬とあかね。順当に風馬が勝った。本当にはやい！
あかね「い、今のはウォーミングアップだ。もう一回勝負だ！」
風馬がスタミナ切れをおこせば勝てる可能性がある･･･という計算があったのかどうかわからないが、あかねは何度も何度も風馬に挑戦した。二人ともヘトヘトになったが、結局、あかねが風馬に勝つことは一度もできなかった。
あかね「風馬･･･必ずオリンピックに出て、日の丸揚げろよ･･･！」
あかねは、風馬をあきらめた。

次は弁慶のところだ。
あかね「たのもォー！弁慶、俺と勝負だー！！俺が勝ったらラグビー部に戻れ、いいな？」
あかねは、先ほどあれだけ走った後なのに、弁慶と相撲で勝負しようというのだ。
弁慶は、やはり一度相撲部屋と交わした契り事は破れないと言って、あかねの勝負を真っ向から受けた。



弁慶、やりすぎでは？･･･というか、弁慶こそ明慈と試合してから相撲部屋に移籍すればいいじゃん。
あかねは「もいっちょー！」「も一回だー！」「まだまだー」と、日が暮れるまで弁慶にぶつかり続けた。しかし、やはり一度も弁慶に勝つことはできず、あかねはズタボロになってしまった。
あかね「弁慶･･･横綱になれよ」
あかねは、弁慶もあきらめざるをえなかった。

明慈大との試合当日の朝、あかねは悪夢にうなされていた。風馬に放ったつもりのパスがミスパスになり、モールも弁慶がいないために一方的に押され、明慈に圧倒されて敗戦してしまう夢だ。最後には、
朝倉「しょせん、君らは我らの敵ではなかったようだな。‘打倒明慈’とは身の程知らずもいいとこだ。はあっははは･･･！！」
と嘲笑される場面で、目が覚めた。**朝倉は、既にそういうゲスいことを言うキャラではなくなっていると思うが。**
あかね「ゆ･･･夢。そ、それにしても、なんちゅうおぞましい夢だ･･･やっぱり、あのふたりが欠けたのは痛いよなァ～･･･ちょっと、格好つけすぎたかなァ･･･」
カッコつけだったんかい。
カーテンを開けて朝の光を浴びるあかね。
あかね「これまで、どんな強敵でもなんとか乗り越えてきたじゃないか･･･」
ナポレオン滝や毘沙門大の面々を思い出したあかねは、何かいいアイディアを思いついたようだ。

明大のラグビーグラウンド。名目上は明慈大学 vs 弁天堂大学の「練習試合」であるこの試合には、TV 局も含め異例のメディアが集まってきていた。
近藤「風馬と弁慶はやはり来ないのか･･･こりゃあキツイ試合になるぜ～･･･」
あかね「大丈夫だって！ふたり分をカバーする作戦は、ちゃあんと考えてあるから！」
あかねは妙に自信満々だった。
ちょうどその頃、風馬はオリンピック選考会で出走する頃、弁慶は国技館で序ノ口の取組が始まるところだった。
あかね「風馬･･･弁慶･･･見ててくれよ。必ず勝ってみせるからな！」
空に向かって誓うあかねだったが、**あいにく二人とも見てないです（笑）**

明慈大チームもグラウンドに入ってきた。遠巻きに目線で火花を散らす、あかねと朝倉。あかねは、試合の機会を与えてくれた朝倉に感謝しながらも、一年前に 200-0 で大敗北した屈辱を晴らすことを誓うのであった。

グラウンド脇では、寺島先生と監督が挨拶をしていた。
寺島先生「いよ～っ、独眼竜久しいのう」
監督「はっ･･･ごぶさたしております」
隣にいた栗果が、寺島先生を**スケベじじい**呼ばわりすると、監督は彼女を叱った。
監督「バカモン！このお方は、明大ラグビー部の部長にして、ラグビー連盟の名誉会長だて。日本ラグビー界の父を言われとる人だぎゃ！！」
寺島先生の正体がようやく判明した。なるほど、こうして明大と弁天堂大の試合を実現さ

せるだけの力があったことも頷ける。

その頃、風馬はちょうど、選考会のレース中であった。10 秒 02 という大会新記録で順当に勝ち上がっていたが、走っている最中に併走するあかねの幻影をみて、心に若干の揺らぎが生じたようだ。
また、弁慶は国技館で取組前の控え中であった。横綱の張間関は弁慶のオーラから、その実力の片鱗を見出したが、当の本人は婚約者からの電話にデレデレしている始末だった。
その様子を横目に、弁慶もあかねのことが気になっている様子だった。

朝倉のキックオフで試合が始まった。
監督「ええか一勝っても負けても、この試合が弁大ラグビー部の最後の試合だぎゃ！悔いの残らんような試合をせい！」
今回、明慈と試合をすることで弁天堂のラグビー連盟からの除名は規定路線となっているようだが、**なんで「練習試合」というていなのに、除名になってしまうのだろうか**。厳しすぎやしませんか。
皆が試合に集中し始めた頃、栗果は寺島先生にアプローチした。
栗果「やっほー。おじいちゃんて偉い人だったのねェ。私、全然知らなかったわ。実は、ウチのチームが連盟から除名されてこの試合が最後になるかもしれないのよ。おじいちゃんて偉い人なんでしょ。連盟の人に弁大を許してもらうよう頼んでみてよ」
いったんは、そんな力はないと断る寺島先生だったが、
栗果「もしやってくれるなら、私が今はいているパンティあげちゃうけど･･･」
の一言で、
寺島先生「やるやる！わしにまかせなさい！！」
と**豹変**した。そんなに軽くやれるなら、最初から試合開催の実現だけじゃなくて、そこまでケアしてくれればよかったのに。そして、栗果は、人目のつかないところまで寺島先生を連れて行き、本当に脱ぎたてパンティをプレゼントした。まぁ、これは弁天堂ラグビー部のためだから、いい･･･のか？
その頃、ラグビー連盟の理事長は、明慈大 vs 弁天堂大の中継を部屋で見ていた。
理事長「ううむ･･･あくまで弁大との試合は練習試合だ。公式戦ではない。従って我々は知らん振りをしよう。うんそれがいい！」
だが、弁大をどうするか問われると、
理事長「決まっとる、除名だ！！」
重ね重ね、これが理解できない？どこにそんな強権を発動できる根拠があるの？
すると、
寺島先生「もう、ノーサイドにしてやれ」
と部屋に寺島先生が入ってきた。恐縮する理事達。寺島先生は、理事長に弁大および姫神

あかねに関する一連の処分を取り消せないかと頼んだ。抵抗しようとする理事長だったが、寺島先生は、理事長の結婚の仲人を務めた人でもあり、理事長の過去の女性遍歴にも詳しい。それを引き合いに出され、結局、弁大除名の取り消しを承諾した。
寺島先生、**御歳 93 歳ということだが、お茶汲みの女性のお尻をおさわりもするし、侮れない。**

弁慶と風馬を欠く弁天堂はやはり不利だ。
明大が誇る巨漢・南郷の強烈なアタックから、キックの名手・田辺の見事なタッチキックで陣地を大幅に稼ぐ。
ここで、あかねは、朝に思いついた作戦その 1 を実行することにした。スローインのボールを近藤が持ち、バックス陣が終結！
朝倉「ラッシュ攻撃か･･･！？」
しかし、突撃直前で全員が空中に飛び上がった！これは、毘沙門大の得意技「万華鏡」だ！かつての強敵の技を、自分達のものにして明慈に対抗しようというのだ。･･･でも、**万華鏡は阿門が六つ子だったから特に有効だったわけで、だいぶ威力が落ちるような気もするが、これは素人考えだろうか。**
弁天堂が披露した万華鏡に、南郷は一瞬たじろいだが、朝倉は冷静だった。南郷の背中を踏み台にして、朝倉はさらに上方までジャンプ！あかねがボールを持っていることを見事に見抜いた。
あかね「ちっ･･･何て奴だ。一瞬で万華鏡の弱点を見抜くとは･･･！」
球を持っていることがばれてしまったあかねは、着地と同時に、南郷のタックルを受けてしまう。パワーは弁慶にも匹敵するレベルの南郷、あかねを肩上に担いだまま突進し、

そのまま、あかねごと叩きつけてトライ。あかねは**吐血**した。
女の子にこれはひどすぎる･･･というか、**相手が女の子でなくても、明らかな危険なプレーであり重大な反則**です。南郷さんサイテー。

あかねはしばらく気を失った。
近藤「て、てめえ、やりすぎだぞ～！」
と南郷に食ってかかる近藤。だが、朝倉が割って入った
朝倉「君達はラグビーを難だと思っているんだ？ラグビーは格闘技だ！少なくとも我らはそう思っている。従って、相手チームはルールの許す範囲で、徹底的にぶちのめす！！南郷、かまわんから、どんどん弁大の連中を病院送りにしろ！」
キリッとした顔をしながら、エゲツないことを言う朝倉の真骨頂だ。
だが、ここであかねはヨロヨロと立ち上がった。
あかね「じょ、上等じゃねえか･･･俺達も明大（やつら）を病院送りにしてやろうじゃねーか。朝倉ァ～･･･おめーも保険証用意してからかかって来いよな」
ナイスファイトだ。
監督「以前、戦った時の明慈とは、気迫が全くちがう･･･これが明慈の本来のラグビーだとしたら、弁大（ウチ）の連中は、ここで初めてラグビーの恐ろしさを体験することになるがや！」
だが、**逆に言うと、200-0 で負けて以後、明慈の本気を引き出すほどに、弁大はこの一年で成長した**とも言えるのではないだろうか。

試合再開。あかねは、作戦その 2 を発動した。今度は 15 人全員で固まって突撃。これは、「金剛界曼陀羅」だ！
なんのことはない。**あかねの対明慈攻略作戦は、毘沙門大の戦法のパクリに過ぎなかった**。
明慈側も、15 人全員で迎え撃つ。だが、弁慶を欠く弁天堂は、押しにパワーが足りない。
むしろ、重戦車と称される明慈に**雪崩のように**押し返され、かえってトライを献上してしまった。
柴田「所詮は、他人のサルマネだ。明慈には通用しねえ･･･」
近藤は「弁慶と風馬さえいれば」と漏らすが、あかねは一喝した。
あかね「情けねえことを言うんじゃねえ。弁慶も風馬も、もう弁大のラグビー部員じゃねえんだ。俺達は、今のこのメンバーで明大を倒さなけりゃなんないんだ」
あかねは、作戦その 3 を発動した。
あかね「明大攻略その 3 とは･･･作戦もクソもあるか！破れかぶれの突撃だ」
全くどうしようもなかった。
あかねは、とりあえずボールを持つと、個人技で抜きにかかった。あかねの実力自体はかなりのもの。たちまち 2 人を抜き、朝倉と一騎打ちになった。
横の動きには元来強い朝倉、あかねのフェイントステップをすべて見切る。1 年前は、真

上に飛んで抜くことができたが･･･

さすがの朝倉、過去一度だけ突かれた弱点も既に克服済みであった。**あかね、痛そー**。
あかねが失ったボールを、田辺がとってキック。ボールは、明の前でバウンドし、順当に明がボールをキャッチしようとしたが、なんとボールには特殊な回転がかかっており、田辺のほうへ戻っていってしまった。そのまま田辺がトライ。これが、キックの天才・田辺の「**猫招きキック**」だ。
栗果「ダメだわ。あかね先輩、完全にマークされちゃってる･･･」
監督「それにも増して、やはり明大はディフェンスでもオフェンスでも一枚上手だがや･･･」

ちょうど、その頃、寺島先生は理事長達をラグビー場現場まで引き連れてきたようだ。
寺島先生「お前さん達は、あかねが女だとゆーだけで、除名だのなんのって騒いでおるけど、まァ一度彼らの試合を見てみい。なかなか面白いラグビーをするぞ」
理事長達、一度も試合を見ずに判断してたんかい。しかし、この時点で弁天堂 0-21 明慈。
理事長「はっはは･･･弁大なんてこんなもんですよ。見る価値なんてないですよ」
寺島先生「まだ前半戦じゃ。わからんぞ。ふおっふおっ」
ここまで、寺島先生の笑い方のデフォルト設定は「にょほほほ」だったのだが、**今回は幽霊の爺さんが寺島先生に憑依したのか？**

一方の試合。モールから SH の鈴木（名前は初耳）が球を取り出した。あかねをチラっとみるが、マークされているあかねにパスするのは得策ではないと考え、自分自身が攻撃をしかけた！明慈側は、南郷が立ちはだかる。

鈴木は**あえなく気絶した。南郷、こえー。**

さすがにこれは反則。弁大はスクラムかペナルティーキックを選択できる。SH が欠けたのだが、定石ではペナルティーキックを選択するところだが･･･あかねは少し考えてスクラムを選択した。なんと、SH を明にやらせるという。

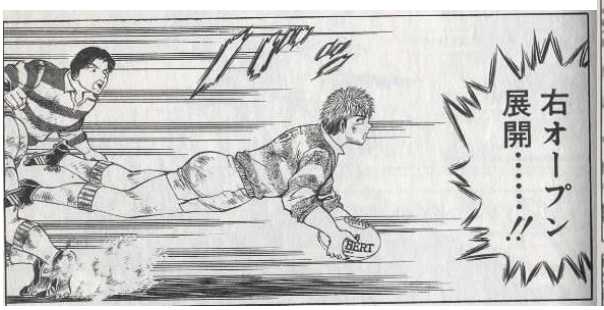
明「わ、私･･･いや、ボクが！？」

あかね「お前は SH の練習もしたことあるよな。大丈夫、できるって！」

柴田「バカな･･･早池峰は弁大の中では一番戦力にならない奴だぞ。それを、ゲームの要・SH にするとは･･･！？」

朝倉「今、入った 15 番（明）はマークしなくていい。どうせ、大した事は出来ないだろうからな。その分、あかねを徹底的にマークしてつぶすんだ！」

いざ、スクラム。あかねと明がアイコンタクトをとる。明はあかねの意図に気がついたようだ。小さく頷いたあと、右オープン展開！･･･と見せかけて



空中で方向転換し、左サイドの六角にパスをした！このシーン、「ウォー・●ライ」のオマージュですよね？（笑）

※参考画像：往年の名作ラグビー漫画「ウォー・●ライ」の一シーン

六角の前には南郷が立ちはだかるが、六角は背中越しに真上にボールを放り投げた。意表をつかれる南郷。六角の後方にはあかねがついてきていた。六角の背中を踏み台にして、南郷の頭上高くジャンプ、六角が放ったボールを空中でキャッチした。
あかねは、これまでのラフプレーのお返しとばかりに、南郷の顔面に膝蹴りを入れながら、インゴールに飛び込み、トライ！ついに反撃の狼煙をあげた。
寺島先生「やっと弁大らしいプレーになってきおったな」
朝倉「くっ･･･あの 15 番を少々甘く見すぎたな･･･」
あかね「ナイスプレー、明！」
だが、南郷は鼻血を垂らしながら「おのれええ～･･･！」と、さらに闘争心のボルテージを上げたようだった。